

千波湖の今と昔

見川中学校 2年 石川咲弥

天保元年（1830年）



動機

前に昔の千波湖は、今よりもずっと大きかったと聞いて、どのくらい大きかったのか、なぜ小さくなったのかを調べてみたいと思ったからです。

千波湖の成り立ち

最終氷期の時代であった2万年から1万8千ほど前、海面の低下により流れが急になった那珂川、古桜川は台地に深い谷を造った。1万2千年前頃から地球の気温上昇が進むにつれ海面も上昇し、6千年前頃には現在の千波湖近くまで入江が侵入した。5千年前頃から海面の低下が始まり、古桜川は那珂川と合流した。那珂川が氾濫時に運んだ堆積物は古桜川との合流点に逆三角形を形成し古桜川を堰き止めた。これにより千波湖の原型たる古千波湖が誕生した。このような形成過程を持つ湖沼を「堰止湖」と呼ぶ。

流れを遮られた古桜川は那珂川の背後湿地に流れ込み「赤沼」と呼ばれる沼地も造った。赤沼の他、古千波湖東端と那珂川の間に「鏡か池」と呼ばれる池沼などが連なって存在しており、古千波湖の鏡か池とこれらの池沼を経由し、最終的に赤沼から那珂川へ流れ込んでいた。

江戸時代 水戸藩が整備する

江戸時代に入り水戸藩は城下町造りの一環として慶長から寛永にかけて古千波湖の整備を行った。古千波湖から赤沼を経由し那珂川に流れ込んでいた流出河道は、水戸城の東から北側を囲む外堀となるように屈曲した水路に改修された。この水路は「下町外堀」、「桜川」又は「馬場川」と呼ばれる。城下町の拡張のため、沼地や湿地があった古千波湖東部は埋立て工事が行われ「田町」と呼ばれる「下町」が開発された。この埋立てに接する古千波湖岸は崩れないように護岸工事が行われた。古千波湖北側も屋敷地の拡充や船着場の設置のため整備・護岸化された。これらの整備事業により古千波湖岸が強い込まれ、湖沼「千波湖」が成立した。

水戸藩にとって千波湖は水戸城を守る要害であり、そのため、禁漁や禁夜船などの措置がとられていた。又、水深の浅い千波湖は泥の沈積や草藻の繁茂が生じやすいため、軍事面と治水面から浚渫や草藻の除去といった管理が重要であった。この管理業務は水戸藩の統制の下、武家方と町方双方が負担して行われた。

明治時代 誰が管理する？

明治時代になり、千波湖管理を統制していた藩政が廃藩置県によって無くなったことにより、千波湖を巡り様々な人々の利害の衝突が表面化した。一応、維持管理は旧慣習を引き継ぐ形で備前堀下流の村々が責任を持つことになったが、彼らだけでは維持管理は困難で湖沼の荒廃が進んだ。荒廃した千波湖ではマリアア原虫をヒトに媒介させるハマダラカの実数が増え、水戸の風土病であったマリアア（瘧（おこり）と呼ばれた）の罹患が増大するなどした。

千波湖の管理団体として「千波湖水利土巧会」が難産の末、1885年に発足した。「千波湖水利土巧会」は後、「千波湖普通水利組合」となり現在の千波湖土地改良普及区へ続く。

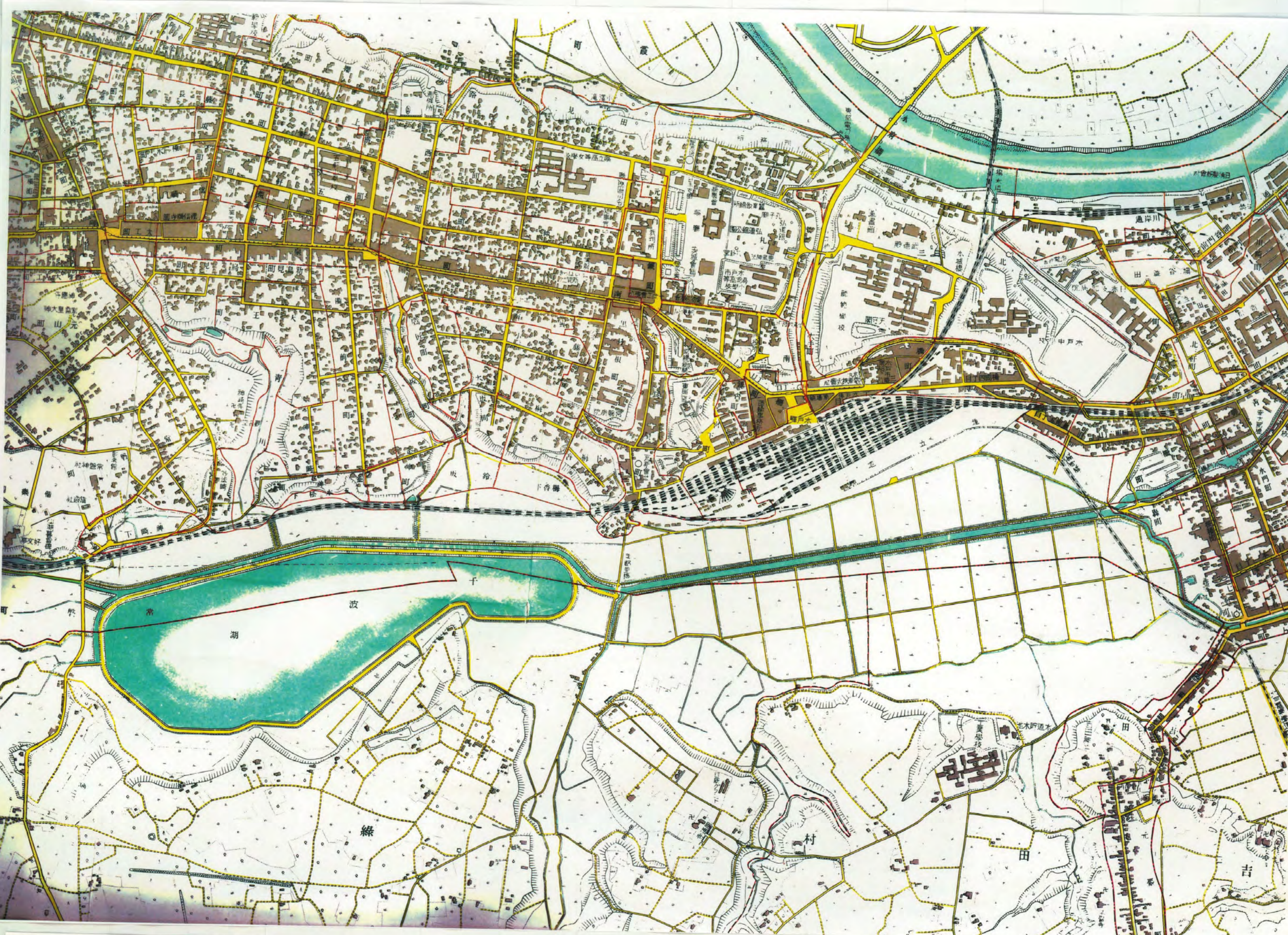
大正時代 用水不足を解消ならず

1912年（大正元年）12月7日、水利組合は湖底の汚泥除去のための工事計画を県に請願した。この工事内容は、ひとつは藩政時代に造られ明治初年に破壊されていた御室橋と呼ばれる千波湖内堀と水戸城外堀の馬場川（「下町外堀」、「桜川」とも云う）を繋ぐ地下水路を汚泥排出路として復活させる事、もうひとつは那珂川からの逆流を防ぐ目的で馬場川に設置されていた石垣を切り下げる事であり、これにより千波湖の汚泥除去を促進させ、荒廃が進み真菰の繁茂や堆積土砂の蓄積で貯水容量が狭まってしまった千波湖の貯水量を増大させ用水不足を解消しようとするものであった。この請願は受け入れられ1913年1月31日に一連の工事が着工され翌年竣工した。が、その検査中に工事箇所が漏水により崩壊するという事故が起き、補修工事が行われる。補修工事は1915年に完成したが、完成後再度漏水が発生したため、更なる追加の工事が行われた。この2回の追加工事で工事費が当初の金額から大きく膨れ上がり、県からの補助金もあつたにしろ組合員の負担がより増した。その負担に見合わず新たな地下水路の汚泥排出効果は期待を下回るものであり、水利組合が望んだ用水不足解消は成らなかった。

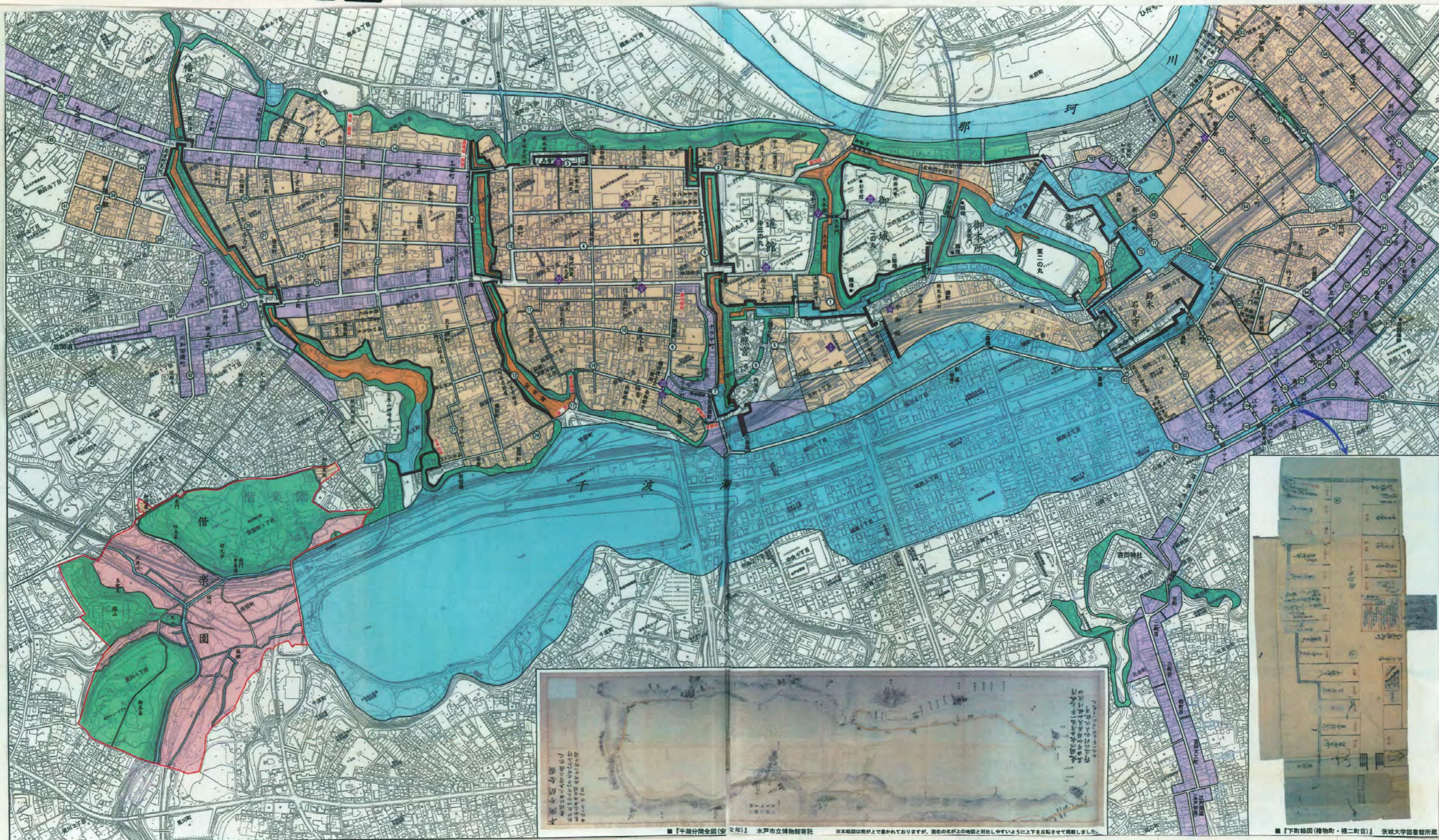
昭和にかけて11年かかった埋め立て工事

千波湖の様々な問題解決のため、遂にその東側半分（下沼）の干拓を含む大改修が実施された。この千波湖改修事業は1921年（大正10年）に起工し、1932年（昭和7年）終了した。この事業により埋め立てられた下沼部分は水田とされた。千波湖に直接流入していた桜川は千波湖から切り離され、湖北岸に沿って流れた上で水戸城の旧外堀である馬場川に接続し、那珂川に流入するように改修された。同じく千波湖に直接流入していた逆川も千波湖から切り離され、桜川に合流するように改修された。千波湖改修事業とほぼ同時期に内堀の埋立ても行われており、現在の水戸駅南地区の陸地が誕生した。改修事業によって造られた水田における稲作の用水は改修された桜川から取水するようになり、用水源としての千波湖の価値は減じた。

昭和9年（1934年）



今と昔を重ねた地図

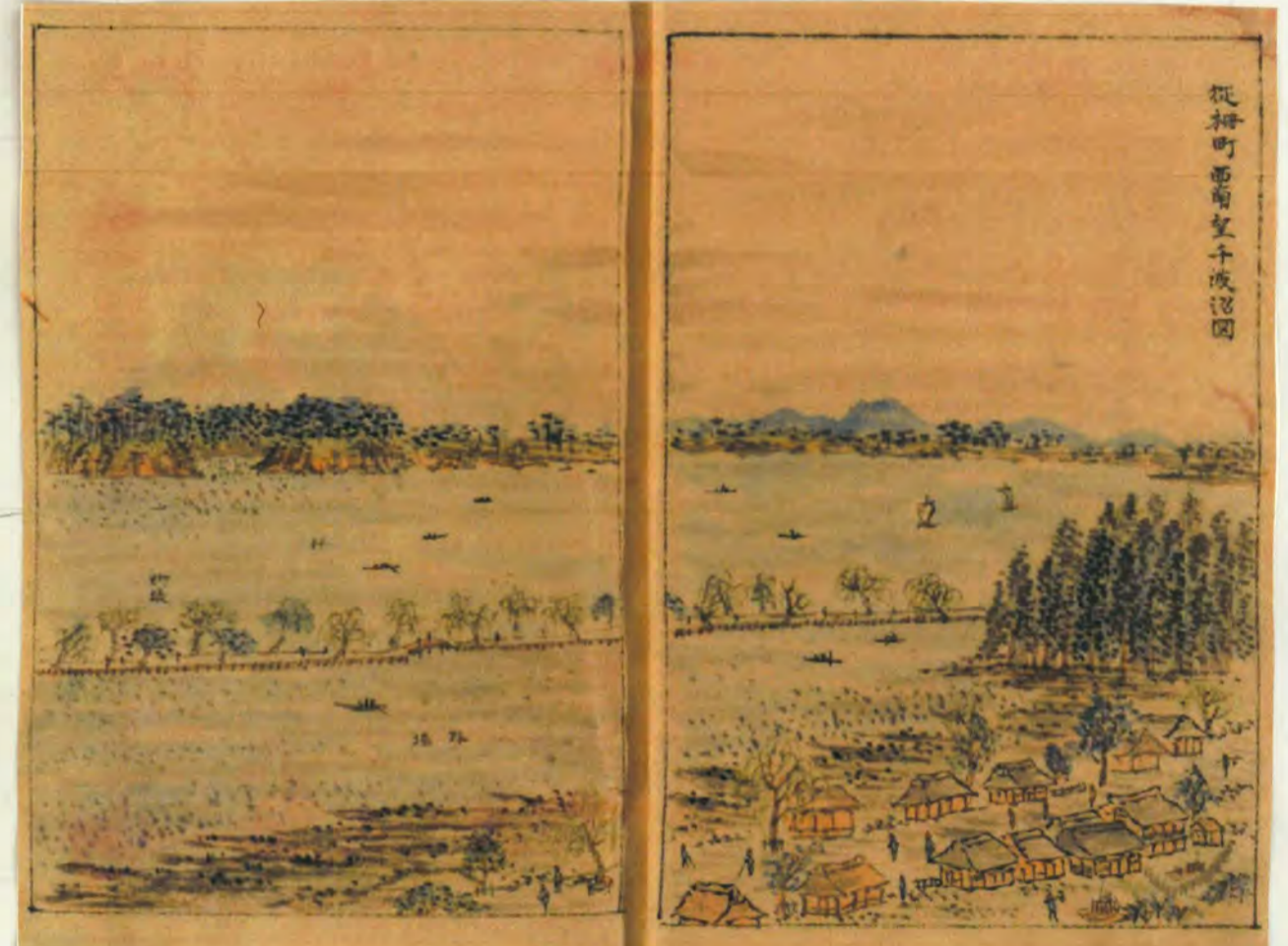


昔の千波湖

面積 約 1,275 km²
今の面積の約 3.8 倍の大きさ
総面積 約 1,190 km²の 3分の2 が干拓・開拓され、残りの 3分の1 が貯水及び風致湖となりました。
これによって現在の千波湖が形づくられました。

徒柵町西南望千波沼図

幕末から大正にかけて作画 松平雪江 作



現在の千波湖

面積 約 0.332 km²
周囲長 3000m (3 km)
最大水深 1.2m
平均水深 1.0m
貯水量 365,000 m³
成因 せき止め湖

現在の千波湖



水利組合とは

水利組合とは、明治時代に農業用のかんがいや水害防止等の事業を行う目的で、全国各地に設立された組合。1949年に一部組合が改組され、農業利水関係は土地改良区へ移行した。現在残っている水利組合は、水害予防のための組合であり、多くの場合ボランティア的に地域の水利秩序の維持に取り組んでいる。

千波湖の歴史まとめ・感想

今から5000年から3000年前に昔の那珂川の堆積物により昔の桜川がせき止められて出来た沼地が千波湖と分かり最初から千波湖があったわけではなかったのだと驚いた。この時の千波湖は現在の大きさよりも3倍以上大きく千波湖の東側を埋め立てる工事が行われたことによりそれまで直接流入していた桜川、逆川と切り離され、ほぼ閉鎖された。このことにより流れが少なくなって藻などが生え千波湖が汚れてしまったと思った。

参考文献
水戸の城下町MAP 著者 水戸市水戸観光コンベンション協会
古地図と歩こう！水戸の城下町MAP 著者 水戸市水戸観光コンベンション協会
水戸の町名 地理と歴史 著者 水戸市役所
千波湖-Wikipedia
<<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%83%E6%B3%A2%E6%B9%96>>